

分布上顕著な新津の植物 (3)

石 沢 進

*新津丘陵における新潟県絶滅危惧種の分布

新津市内には、平野部にはりだした丘陵があり、自然に恵まれた地域である。古来から人々が利用してきた里山であり、多くの植物が分布し、貴重な地域として位置付けられる。その里山に生育する植物の中に、新潟県で絶滅の傾向にある植物があり、その種と生育状況を記録する。

「レッドデータブックにいがた—新潟県の保護上重要な野生生物」(2001)に掲載している種の内、新津丘陵に分布している維管束植物は次のようである。

絶滅危惧I類 (EN)		01	02	03
オミナエシ:	新潟県 RD: EN			
キキョウ:	新潟県 RD: EN; 環境庁: VU			
トケンラン:	新潟県 RD: EN; 環境庁: EN			
クマガイソウ:	新潟県 RD: EN; 環境庁: VU			
絶滅危惧II類 (VU)				
サネカズラ:	新潟県 RD: VU			
ハンゲショウ:	新潟県 RD: VU			◎
ヒゴスミレ:	新潟県 RD: VU			
カラタチバナ:	新潟県 RD: VU			○
ハイハマボス:	新潟県 RD: VU; 環境庁: VU	○	○	○
ヤナギスブタ:	新潟県 RD: VU; 環境庁: VU			
ヤマトミクリ:	新潟県 RD: VU; 環境庁: VU	○	○	○
エビネ:	新潟県 RD: VU; 環境庁: VU			
キンラン:	新潟県 RD: VU; 環境庁: VU			
ホクリクムヨウラン:	新潟県 RD: VU	○	○	
ヒトツボクロ:	新潟県 RD: VU		○	○
準絶滅危惧 (NT)				
ウラジロ:	新潟県 RD: NT	○		
ミズワラビ:	新潟県 RD: NT			○
オオバノハチジョウシダ:	新潟県 RD: NT	○		○
ツルデンダ:	新潟県 RD: NT	○		○
コシノカンアオイ:	新潟県 RD: NT	○	○	○
ヤガミスゲ:	新潟県 RD: NT			○
地域個体群 (LP)				
アカガシ:	新潟県 RD: LP	○	○	○
ウラジログシ:	新潟県 RD: LP	○	○	○
フユイチゴ:	新潟県 RD: LP		○	○
ミヤマフユイチゴ:	新潟県 RD: LP			○
ソヨゴ:	新潟県 RD: LP	○	○	○
ヒメヨツバムグラ:	新潟県 RD: LP	○	○	○

◎ 木村 彰氏の確認情報による

上記の植物の内、2003年の調査で新津丘陵における新たな産地の追加は次項に掲載する(参考のため、他地域で新たに分布が確認できた箇所も追加する)。

[略号] IS: 石沢の標本、IS-後の数字は標本番号で新津植物資料室に保管; Photo: 写真ネガ番号; TY: 登坂裕一の標本、

数字は標本番号で同氏保管、(1935~2001) : 標本採集年あるいは写真撮影年、Photo : 写真資料、[] の数字 : 地形図座標

*** 新津丘陵の新産植物**

[写真5・6頁参照]

ミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn. ミズワラビ科 (写真 1・2)

新津市金津塩谷 20m: Photo 3050-13~18 Oct. 20, 2003 [5639-50-09]

ミズワラビは近年各地で分布が報告され、県内の平野部に広がっている可能性が高い。新津丘陵でも生育を確認した。新潟県における現在までの分布情報は、本冊子22頁を参照。

シノブカグマ *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi オシダ科 (写真 3・4)

新津市菩提寺山 230m: IS-390916(2003, Photo 3033-9~11) [5639-40-79]

新潟県内陸部の海拔500m以上には普通にみられる(藤塚 1984)が、低所でも稀に分布している。小千谷市桜町吉蔵寺 80m(池上・石沢 1986)、角田山 80m、牧村宮口 80m(池上・石沢 1988)などが低所での記録である。菩提寺山 230mも低海拔の分布である。

タラヨウ *Ilex latifolia* Thunb. モチノキ科 (写真 9・10)

新津市金津 石油の里付近 30m: IS-391896(2003, Photo 3080-20・21) [5639-40-99]

庭木から鳥による種子散布で広がったとみられるが、3mほどの大きさまで樹林内で成長している。

ヒメミソハギ *Ammannia multiflora* Rottb. ミソハギ科 (写真 5・6・7・8)

新津市古津(中学校わき) 10m: IS-390953・390960・390965(2003, Photo 3033-14~20・23~E・3034-1A~5A・3069-12~20) [5639-50-19]

ミズワラビと同様に、休耕田にしばしばみられる。新津市から長岡市にかけての平野部に生えている。本種の新潟県における分布と古津の休耕田における分布・生育状況は、次頁に記載する。

カラタチバナ *Ardisia crispa* (Thunb. ex Murray) DC. ヤブコウジ科 (写真 11)

新津市秋葉 秋葉公園 50m: Photo 2956-15~18 2003 [5639-51-41]

暖温帯の植物であるが、庭木として親しまれている。タラヨウ同様に鳥による庭木からの散布ともみられる。県内では佐渡に多くみられるが、越後側では少ない(笹原 1986)。新発田市五十公野 20mでも記録がある(池上・石沢 1993)。

ホッスモ *Najas graminea* Delile イバラモ科 (写真 12)

新津市金津 白玉の滝下方 20m: IS-390902(2003 Photo 3034-6A~13A)

ヤガミスゲ *Carex maackii* Maxim. カヤツリグサ科 (写真 13)

新津市小口<能代川> 10m: IS-391712(2003, Photo 2067-20・21 Nov. 2, 2003 [5639-51-22]

新潟市周辺、信濃川沿い、阿賀野川沿いなど低海拔に分布している(笹川 1986)。

[帰化種]

セイヨウオオバコ *Plantago major* L. オオバコ科 (写真 14)

新津市小口能代川 10m: IS-391715(2003, Photo 3067-E) [5639-51-22]

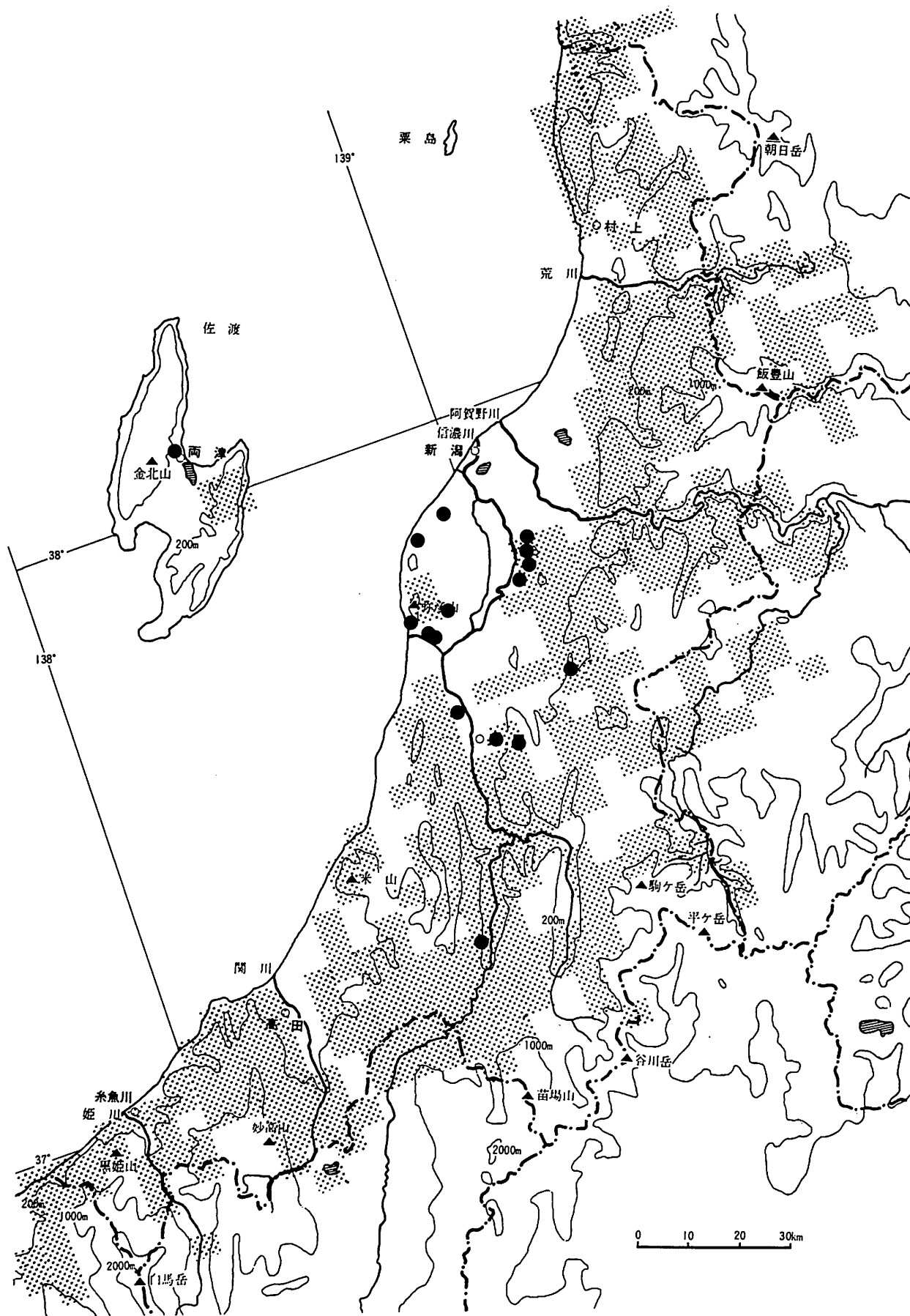
キクタニギク *Dendranthema boreale* (Makino) Ling ex Kitam. キク科 (写真 15)

新津市 小口<東島線> 50m: IS-391711(2003, Photo 2067-12~19) [5639-51-21]

オオカナダモ *Egeria densa* Planch. トチカガミ科 (写真 16)

新津市秋葉公園 秋葉湖 30m: IS-386467・390903(2003, Photo 2946-21・22) [5639-51-31]

栽培品の投棄とみられるが、8月下旬に秋葉湖の湖面に広域に繁茂し、開花していた。また、ホテイアオイも数株湖面に漂っていた。



ヒメミソハギの新潟県における分布図
 黒点はヒメミソハギの分布地点 細点はユキツバキの分布域



[写真 1] ミズワラビ 新津市金津塩谷 20m
[Oct. 20, 2003:IS] 新潟県絶滅危惧種(NT)



[写真 2] ミズワラビ 新津市金津塩谷 20m
[Oct. 20, 2003:IS] 新潟県絶滅危惧種(NT)



[写真 3] シノブカグマ 新津市菩提寺山 230m
[Oct. 14, 2003:IS]



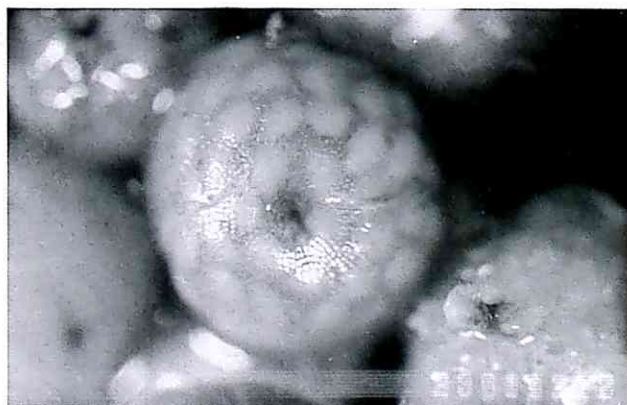
[写真 4] シノブカグマ 新津市菩提寺山 230m
[Oct. 14, 2003:IS]



[写真 5] ヒメミソハギ 新津市古津(中学校わき)10m
株(全体) [Oct. 14, 2003:IS]



[写真 6] ヒメミソハギ 新津市古津(中学校わき)10m
花 [Oct. 14, 2003:IS]



[写真 7] ヒメミソハギ 新津市古津(中学校わき)10m
果実 [Oct. 14, 2003:IS]



[写真 8] ヒメミソハギ 新津市古津(中学校わき)10m
種子 [Oct. 28, 2003:IS]



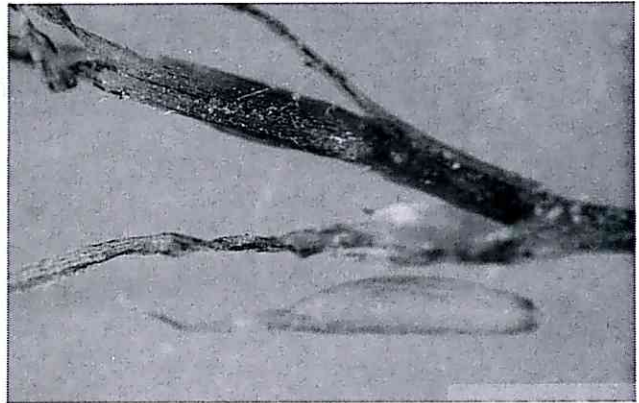
[写真 9] タラヨウ 新津市金津 石油の里付近 30m
[Nov. 16, 2003:IS]



[写真 10] タラヨウ 新津市金津 石油の里付近 30m
[Nov. 16, 2003:IS]



[写真 11] カラタチバナ 新津市秋葉 秋葉公園 50m
[Sept. 9, 2003] 新潟県絶滅危惧種(VU)



[写真 12] ホッソモ 新津市金津 白玉の滝下方 20m
[Oct. 15, 2003:IS]



[写真 13]
ヤガミスゲ
新津市小口<能代川>10m
[Nov. 2, 2003:IS]
新潟県絶滅危惧種(NT)



[写真 15] キクタニギク 新津市 小口<東島線>50m
[Nov. 2, 2003:IS]



[写真 14]
セイヨウオオバコ
新津市小口能代川
[Nov. 2, 2003:IS]



[写真 16] オオカナダモ 新津市秋葉公園 秋葉湖 30m
[Aug. 23, 2003:IS]